

「遺族」をどう支えるか

～ グリーフサポートとしての葬送～

2010年 7/10(土)・18(日)・25(日) 14時～ 於：大蓮寺・應典院

年間 114 万人が亡くなる多死社会は、私たちが多くのグリーフ（死別の悲しみ）を背負う時代でもあります。たいせつな人の死をどう受け入れ、どう送るか～それは日本人が独自の歴史と文化の中で育んできた、遺族の精神史と重なります。

しかし、少子化が加速して、人と人のつながりが分断し、また孤独死、無縁死も急増する中、死者と遺族の関係にも大きな変化が押し寄せています。そもそも死後の承継者が縮小すれば、「遺族なき供養」という事態も拡大していきます。葬送の分野では、血縁に頼らない永代供養墓が普及しており、首都圏では葬儀をしない「直葬」派が全体の3割を占めるといいます。

墓や葬式、あるいは僧侶という存在は、長い歴史を通して、死別の悲しみを支える作法を伝えてきました。しかし、遺族が急速に変容する今、「葬式仏教」も制度疲労を来し、大きな動揺が窺えます。

遺族を巡り、今何が起きているのか。そして、遺族なき現代にあって、死別の悲しみをどう支え、死者をどのように悼むのか。今回のエンディングセミナーは、3つの視点から「遺族とグリーフサポート」について考えます。

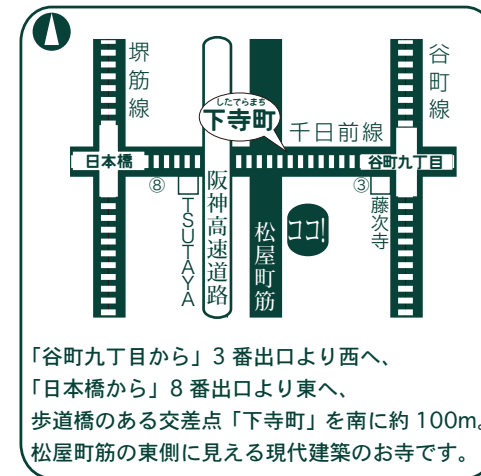
ゲスト

井上 治代さん (7/10)
[エンディングセンター代表]

橋爪 謙一郎さん (7/18)
[株式会社ジーエスアイ代表取締役]

藤澤 克己さん (7/25)
[自殺対策に取り組む僧侶の会代表]

<各回ともインターネットで直接申込が可能です>
<http://uemachi.cotocoto.jp/event/> (裏面で各回予約番号を確認!)
 <事前の準備状況は大蓮寺のブログで紹介!>
<http://mitoribito.blogspot.com>



「谷町九丁目」から3番出口より西へ、
 「日本橋」から8番出口より東へ、
 歩道橋のある交差点「下寺町」を南に約100m。
 松屋町筋の東側に見える現代建築のお寺です。

問合せ 應典院寺町倶楽部 (おうてんいんてらまちくらぶ)

543-0076 大阪市天王寺区下寺町 1-1-27 TEL 06-6771-7641 FAX 06-6770-3147
 電子メール info@outenin.com ホームページ <http://www.outenin.com>

主催：大蓮寺・エンディングを考える市民の会、應典院寺町倶楽部

共催：浄土宗大蓮寺、應典院 助成：公益財団法人 JR 西日本あんしん社会財団 協力：NPO 法人遺族支え愛ネット、Live on、NPO 法人エンディングセンター

「遺族」をどう支えるか

～グリーフサポートとしての葬送を考える

多くのグリーフ（死別の悲しみ）を背負う多死社会。遺族なき時代が到来する中、死別の悲しみはどう支えられ、死者をどう悼んでいくのか…。

聞き手 秋田光彦（大蓮寺・應典院住職）【各回とも】

大蓮寺・エンディングを支える市民の会代表。パドマ幼稚園園長も兼ねる。97年に塔頭寺院「應典院」を再建し、地域での社会的・文化的活動の拠点に開放。また、新しい葬送のかたちを探して、02年には大蓮寺墓地に生前契約個人墓「自然」及び永代供養墓「共命」を建立。



7/10(土)
14:00～

應典院寺町倶楽部「寺子屋トーク第58回」

遺族と「墓友」たち

～「人生の最期」にこだわる仲間たち～

会場：應典院 <閉会 16:30>

7/18(日)
14:00～

遺族サポートとお葬式

～グリーフでつながる～

会場：大蓮寺 <閉会 16:00>

7/25(日)
14:00～

自殺遺族と仏教

～自殺問題に取り組む僧侶たち～

会場：大蓮寺 <閉会 16:00>



井上 治代さん

NPO 法人エンディングセンター代表
東洋大学教授

司会：出口久美さん（NPO 法人遺族支援愛ネット）

【オンライン予約】

<http://uemachi.cotocoto.jp/event/40689>

参加費：一般 1,500 円・應典院寺町倶楽部会員・学生 1,200 円

【聞き手、秋田光彦の視点】早くから日本の家族問題として葬送の研究をされてきた井上さんは、90年代から血縁に代わる新たな結縁型の永代供養墓の普及に努めてきました。とくに、樹木葬や桜葬など、自然志向の永代供養墓は、市民中心の新しい葬送の試みとして、社会的な関心を集めてきました。同時にこれは、従来の寺と檀家という閉じた関係から、NPO が個々の市民を葬送でつなぐ斬新な転回でもありました。「墓友」とは、お墓のコミュニティに生まれる親しい人間関係。そこから、日本の遺族像も徐々に変化していくのかもしれませんが、人生のエンディングを起点に生まれる、新しい関係づくりを、井上さんに聞きます。井上さんの新著は、中学生向けに書かれた「より良く死ぬ日のために」。

橋爪 謙一郎さん

株式会社ジーエスアイ代表取締役



【オンライン予約】

<http://uemachi.cotocoto.jp/event/40690>

参加費：一般 1,000 円・應典院寺町倶楽部会員・学生 800 円

【聞き手、秋田光彦の視点】テレビドラマやコミック「死化粧師」のモデルとして知られる橋爪さんは、米国での留学と修行を経て、いち早く「グリーフサポート」を日本に紹介。現在はご遺族やそのサポートをする人のためのセミナーを開催し、「グリーフサポート」の普及に力を注いでいます。数多くの死別を見つめてきた立場から、「死」をきっかけに人間どうしのつながりを再生させようと、葬送の可能性を提起しています。海外体験豊富な橋爪さんは、現代の日本の葬式や供養をどう見るのか。グリーフ・コミュニティという新しい視点から、悲しみの力を語ります。新著に「お父さん、「葬式はいらない」って言わないで」（小学館新書）。

藤澤 克己さん

自殺対策に取り組む僧侶の会代表
浄土真宗本願寺派安楽寺副住職



【オンライン予約】

<http://uemachi.cotocoto.jp/event/40691>

参加費：一般 1,000 円・應典院寺町倶楽部会員・学生 800 円

【聞き手、秋田光彦の視点】年間 3 万人超が亡くなる自死大国日本。経済悪化の影響で、青年や壮年の自殺も増加しているといます。自殺者の遺族に対し、僧侶には何ができるのか。藤澤さんは、「自殺対策に取り組む僧侶の会」代表として、自殺念慮者との手紙相談や自死遺族の分かち合い、追悼法要などを開催してきました。もっとも困難なグリーフサポートの現場では、これまでの布教の立場とは異なる、僧侶のイメージが浮かび上がります。自殺問題を通して、遺族再生と仏教の現在を語ります。

◎大蓮寺のエンディング奨励事業「自然賞」授賞式を併催!

大蓮寺では、生前個人墓「自然」の会員から寄せられた志納金の一部を、エンディング文化創造に取り組む団体・個人に、活動奨励金として贈呈することとなりました。その第1回受賞者として、長年、新しい葬送文化の普及に努めてこられたエンディングセンター代表・井上治代さんを選定、7月10日、講演の前に、授賞式を執り行います。大蓮寺では、今後もお寺とNPOの協働事業を積極的に進めてまいります。

